

踏み跡 <My Mountains>

部下の W 君の結婚式に招かれて新潟へ行くことになった。ならば・・・

ということで、帰りにひと山登って来ようということにした。結婚式の帰りに登山をするためには、礼装と登山スタイルと両方の衣装が必要で、必然的に車で行くことになる。車で行くならば、交通機関が不便でなかなか行く機会に恵まれない山が浮上してくる。

積年の懸案事項「苗場山登山」はこんなわけで実現の運びとなった。

昭和 40 年代前半ぐらいの時期だったろうか、上越・越後の山に興味を持ち始めた頃に、鈴木牧之著の「北越雪譜」という書籍の存在を知った。どうしても読みたくなって、新聞の読者投稿の「譲って下さい」欄に投書したら、とある篤志家の方が提供して下さいました。

この方面の山に登る時には、ガイドブックとともに必ず目を通す一冊の本。

「北越雪譜」に記されている苗場山の項には、こう触られている。

「苗場山は越後第一の高山なり、魚沼郡にあり登り二里という。絶頂に天然の苗田あり、依りて昔より山の名に呼ぶなり。」

文化 8 年 7 月、牧之は友人四人らと苗場山登山に挑んだ。そして頂きに立った時の印象を

「さて見渡せば越後はさらなり、浅間の煙りをはじめ、信濃の連山みな眼下に波濤す。千曲川は白き糸を引き、佐渡は青き盆石を置く。能登の・・・、越前の遠山は・・・、ここに眼を拭いて扶桑第一の富士を見いだせり、・・・・。この絶頂は周一里という。もうもうたる平蕪高低の所を見ず、山の名に呼ぶ苗場という所ここかしこにあり。・・・・(以下略)」と書いている。



昭和 6 2 年 5 月 2 4 日
新潟郵便貯金会館で結婚式・披露宴のあと、この会館に宿泊。

昭和 6 2 年 5 月 2 5 日
6 時に起床、天気は晴というよりも快晴に近い。駅前のコンビニで食糧の不足分を購入し披露宴で土産になった食べ物（赤飯等）も登山用の食料として有効活用することにした。
新潟から湯沢インターまで関越自動車道、雪をたっぷりつけた越後三山や巻機山からジャンクションピークへの稜線を眺めながら走れるという最高に幸せなドライブ。湯沢で 17 号線に下りて八木沢へ。
八木沢から祓川への道は「一般車は通行許可制」となっていたが、「登山目的」と伝えたら入らせてくれた。「17 時にゲートが閉まるので、それまでに出るように」とのことだった。おかげで和田小屋下の駐車場まで入ることができた。
9 時 15 分、身支度を整えたあと烏龍茶とおにぎりの朝食。9 時 52 分に出発。スキー場の中を突っ切って登って行くと、早くも残雪が現れて一本目のリフトの下あたりでかなりの積雪量になってきた。
リフトの終点を過ぎてしばらく登ると、中の芝に到着。11 時 45 分、海拔 1700m ぐらいになるだろうか。湿原と思しき場所ではあるが、雪どけの水がごうごうと流れて登山道は川のようになっている。

踏み跡 <My Mountains>

ショウジョウバカマの一群を見やりながら、更に上をめざす。

小尾根の先端には雪庇があり、うっかり潜ると腰までつかうような積雪量。手ごろな固さで歩きやすそうな場所を選んでの歩行が続く。中の芝より上はまだ一面の雪の原で、上の芝からは冬山を思わせる銀世界で、



苗場山へ来たという実感がじわじわと迫ってくる。(上の写真：巻機山～谷川連峰への稜線・遠くに燧も)

13時15分、苗場山山頂に到着。海拔2145.3m、雲上の別世界を思わせる大雪原が広がる。

(右写真：苗場山山頂付近・一番奥に遊仙閣)

これぞまさしく苗場山だという感慨が走りまくる。展望については「スゴイ!!」と言いたくなる凄さ。越後三山、巻機山からジャンクションピークへの長い長い稜線、平ヶ岳、燧と至仏、大水上山などの奥利根水源の山々、岩菅山と鳥甲、そして志賀高原……。

(下の写真：鳥甲山方面を望む)

360度の展望をおかずに昼食は、披露宴で頂いたお赤飯とコンビニのおにぎり、わかめとあさりの味噌汁、



デザートはオレンジと景色に負けない豪華さ。

食後の休憩と付近の散策をたっぷりと楽しみ、14時12分に下山開始。林道のゲートが閉まる時刻を意識して、途中で景色を楽しむ時間も配慮して早めの行動とした。

往路で付けた雪上のトレイルは好天による雪どけのため消えてしまい、凹凸の少ない雪原でのルートファインディングは危機。僅かに樹林帯に入った時だけ踏み跡があり安心できる。慎重に歩くので時間は多少かかり過ぎ気味のため、顕著な下り坂はグリースードを活用して所要時間の挽回。

途中でショウジョウバカマとシラネアオイを撮影

中にフィルムが終わりになってしまった。まだ撮りたい景色は沢山あったんだが……。

和田小屋下の車デポ地点に16時15分帰着。

帰路は早い方が良いので湯沢インターに向けて走り始めたが、八木沢付近で道端に何気なく群生しているゼンマイが目がくらみ……。立派なお土産ができて、意気揚々と関越自動車道に入った。

本で読み、地図で見て、遠くから眺めて、いつかは登ってみたいと思っていた苗場山について登ることができた。

苗場山は平ヶ岳よりもっと広い大平原が広がる山頂、しかも5月の残雪をまとい迫力満点、凄いいい山だ!! 山頂の大雪原に立った時には、鈴木牧之にひけをとらない興奮を感じた。

自らの百名山を挙げる日があれば必ず入れるに違いない。うれしさと達成感とで熟睡できる晩だった。

以上